

経営評価報告書[組織体制シート(各法人共通)]

(A)-1

平成29年7月1日 現在

1. 組織の概要

団体名		代表者(職・氏名)		所在地
公益財団法人しまね海洋館		理事長 島田 一嗣		浜田市久代町1117番地2
		(任期) H29.6.29~H31.6評議員会		
設立時期	設立根拠	県所管課	事業年度終了日	適用会計基準
H25.4 (H9.4)	整備法第44条	しまね暮らし推進課	H29.3.31	公益法人会計基準 (H20.4.11)
基本財産の状況[千円]※H29.3.31現在		県出資等比率	運用財産の状況[千円] ※H29.3.31現在	
合計額	100,000	100.0%	合計額	495,500
うち県出資等額	100,000		うち取崩しを前提として県が造成補助した財産	-
債務保証の状況[千円]※H29.3.31現在		県出資等との比率		
債務保証の額		0.0%		
設立目的				
島根県が設置する「島根県立しまね海洋館」の管理運営を通じ、多くの人々が日本海の自然や生態とふれあい、楽しく過ごす場を創造し、賑わいの創出や新たな民間活動の誘発により、地域の活性化に寄与するとともに、水族の保護、保全を含めた海洋自然の大切さについての普及啓発に努めていく。				
主な事業内容				
1 島根県が設置する「しまね海洋館」の管理運営事業 2 水族の収集、飼育及び展示に関する事業 3 水族に関する調査研究事業 4 水族に関する知識の普及啓発事業 5 水族の保護及び保全の研究に関する事業 6 しまね海洋館及び水族に関する広報宣伝事業				

注) 設立時期の欄カッコ書きは、公益法人制度改革による移行前の団体設立時期

2. 役員等数 ※当年度欄はH29.7.1現在、前年度欄はH28.7.1現在

	常勤			非常勤			計		
	当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減
理事	1	1	0	6	6	0	7	7	0
うち県OB職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち県職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
監事	0	0	0	2	2	0	2	2	0
うち県OB職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち県職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(役員計)	1	1	0	8	8	0	9	9	0
うち県OB職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち県職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評議員	0	0	0	13	13	0	13	13	0
うち県OB職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち県職員	0	0	0	3	3	0	3	3	0
合計	1	1	0	21	21	0	22	22	0
H28年度会議開催数	理事会等		4回	評議員会等		2回			

3. 県職員である役員等の内容

	県における所属・職名等	前年度と比較して異動のあった事項及び人数
理事		
監事		
評議員	西部県民センター所長、浜田県土整備事務所所長、県立少年自然の家所長	

経営評価報告書[組織体制シート(各法人共通)]

(A)-2

4. 職員数 ※当年度欄はH29.7.1現在、前年度欄はH28.7.1現在

	人数			県OB:団体での職名 県派遣:団体での職名(県での所属)	前年度と比較して 異動のあった事項
	当年度	前年度	増減		
正規職員	23	24	▲1		展示課:▲1名
うち県OB職員	0	0	0		
うち県派遣職員	0	0	0		
うち県職員兼務	0	0	0		
嘱託職員	20	21	▲1		接客:▲1名
うち県OB職員	0	0	0		
臨時職員等	0	0	0		
うち県OB職員	0	0	0		
計	43	45	▲2		

5. 人件費の状況(退職手当を除く)

(1) 役員の報酬等

[円]

支給対象人数	役員報酬等の当団体負担額			福利厚生 ・共済費等	人件費計
	報酬	その他	小計		
①当該団体が報酬等の全部を支給している役員					
9人	7,123,300	0	7,123,300	34,814	7,158,114
常勤					
1人	6,914,800	0	6,914,800	34,814	6,949,614
(1人当り)	6,914,800	0	6,914,800		
非常勤					
8人	208,500	0	208,500	0	208,500
②他団体等が報酬等の一部または全部を負担している役員					
0人	0	0	0	0	0
常勤					
0人	0	0	0	0	0
(1人当り)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		
非常勤					
0人	0	0	0	0	0
計(①+②)					
9人	7,123,300	0	7,123,300	34,814	7,158,114
常勤					
1人	6,914,800	0	6,914,800	34,814	6,949,614
非常勤					
8人	208,500	0	208,500	0	208,500

(2) 正規職員の給与等

[円]

支給対象人数	正規職員の給与等の当団体負担額			福利厚生 ・共済費等	人件費計
	給料	職員手当	賞与		
①当該団体が職員給与等の全部を支給している職員					
24人	88,481,864	12,992,010	32,185,431	133,659,305	22,104,008
(1人当り)	3,686,744	541,334	1,341,060	5,569,138	
②他団体等が職員給与等の一部または全部を負担している職員					
0人	0	0	0	0	0
(1人当り)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
計(①+②)					
24人	88,481,864	12,992,010	32,185,431	133,659,305	22,104,008

【人件費の状況に関する記載内容の注意事項】

※
※
※
※

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-1

1. 事業概要

事業名	内部管理業務				
目的及び内容	①人事・経営管理業務 ②予算管理業務 ③経営(運営)計画業務 ④県との施策調整業務 ⑤理事会・経営委員会 ⑥飲料自販機・ロイヤリティ管理業務 ⑦その他一般的施設運営業務 など				
目標(値)	—				
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
	目標値	—	—	—	—
	実績値	—	—	—	—

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度(計画)	
コスト	48,481,780	55,396,303	54,351,160	56,879,968	
事業費	21,827,207	28,943,849	27,133,003	28,300,000	
財源内訳	補助金・負担金	0	0	0	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	7,881,193	10,393,815	10,393,815	10,393,815
	うち県分	7,881,193	10,393,815	10,393,815	10,393,815
	(上記のうち指定管理料)	7,881,193	10,393,815	10,393,815	10,393,815
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	268,000	268,000	268,000	163,000
	使用料・入場料等	13,678,014	18,282,034	16,471,188	17,743,185
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
人件費	26,654,573	26,452,454	27,218,157	28,579,968	
職員別内訳	役員、評議員	5,323,266	5,174,347	5,155,230	5,177,200
	正規職員、その他職員	21,331,308	21,278,107	22,062,927	23,402,768

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	—	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<p>・平成25年4月1日より、「公益財団法人」に移行した。</p> <p>・公益法人の運営や館内水槽等修繕工事などを含めた諸事務について、島根県及び関係機関との連絡調整を図り、理事会・評議員会等に諮りながら効果的に財団運営業務を行うことが出来た。</p>	

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-2

1. 事業概要

事業名	施設維持管理業務			
目的及び内容	①施設・設備のメンテナンス ②施設の維持・修繕工事 ③光熱水費 など			
目標(値)	省エネ法に基づく「エネルギー原単位(原油換算値/床面積)」を150以下に抑える			
		H26年度	H27年度	H28年度
	目標値	150.0	150.0	150.0
	実績値	146.0	141.5	145.1

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度(計画)	
コスト	263,637,757	241,257,456	240,332,815	239,629,513	
事業費	241,501,999	219,252,606	217,445,583	216,811,000	
財源内訳	補助金・負担金	0	0	0	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	55,357,171	70,861,879	76,286,514	76,089,954
	うち県分	55,357,171	70,861,879	76,286,514	76,089,954
	(上記のうち指定管理料)	55,357,171	70,861,879	76,286,514	76,089,954
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0	0
	使用料・入場料等	186,144,828	148,390,727	141,159,069	140,721,046
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
人件費	22,135,758	22,004,850	22,887,232	22,818,513	
職員別内訳	役員、評議員	719,217	691,192	694,961	691,600
	正規職員、その他職員	21,416,541	21,313,658	22,192,271	22,126,913

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	a	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費について、水槽への注水調整や照明のLED化などの省エネ対策に取り組み、大幅なコストダウンを達成した。燃料調整費などが低く抑えられた要因もあるが、対前年約7千万円の減を達成した。</li> <li>・施設及び設備のメンテナンスについて、昨年度に引き続き効率的な運営が出来た。</li> <li>・設備等の維持・修繕に関して、島根県と調整を図りながら展示水槽の改修工事を行った。今後も増加が予想される修繕工事についても同様に修繕計画を立て、島根県と調整を図りながら実施していきたい。</li> </ul>	

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-3

1. 事業概要

事業名	集客・来場者対策事業			
目的及び内容	①接客業務 ②送客誘致業務 ③広告宣伝業務 ④来場者対策業務 ⑤集客対策等調査検討業務 など			
目標(値)	総入館者目標人数の達成			
		H26年度	H27年度	H28年度
	目標値	400,000人	380,000人	377,000人
	実績値	369,024人	373,833人	357,772人

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度(計画)	
コスト	108,996,371	101,041,912	108,159,205	102,076,961	
事業費	59,157,905	50,544,658	52,218,733	44,700,000	
財源内訳	補助金・負担金	0	527,500	0	
	うち県分	0	0	0	
	受託料等	12,673,680	17,323,025	17,323,025	17,323,025
	うち県分	12,673,680	17,323,025	17,323,025	17,323,025
	(上記のうち指定管理料)	12,673,680	17,323,025	17,323,025	17,323,025
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0	0
	使用料・入場料等	46,484,225	32,694,133	34,895,708	27,376,975
借入金	0	0	0	0	
その他(上記以外)	0	0	0	0	
人件費	49,838,466	50,497,254	55,940,472	57,376,961	
職員別内訳	役員、評議員	0	0	0	
	正規職員、その他職員	49,838,466	50,497,254	55,940,472	57,376,961

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	C	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<p>・年間入館者は357,772人(前年比95.7%)となり、開館以来最低の入館者となった。</p> <p>・繁忙期の混雑対策及び暑さ対策を実施し、大きな事故等なく運営ができた。</p> <p>・集客対策(魅力アップ)事業を実施した。</p> <p>◎飼育の日イベント: ペンギン飼育体験やサメの餌やり体験などを実施した(4/16.17)</p> <p>◎ゆったり親子の会、ファンクラブの日の開催など(通年)</p> <p>※本館シロイルカプール全面改修のため、パフォーマンスが休止となり入館者減少が予想されるが、第3期指定管理期間の年次計画による入館者数をもって事業計画上の基礎数値(目標値)として進めている。</p>	

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-4

1. 事業概要

事業名	水族収集・飼育・展示事業			
目的及び内容	①海獣類の飼育・展示業務 ②魚類の飼育展示業務 ③調餌作業 など			
目標(値)	飼育種・点数(400種10,000点)の達成			
		H26年度	H27年度	H28年度
	目標値	400種・10,000点	400種・10,000点	400種・10,000点
	実績値	434種・12,899点	422種・11,574点	436種・10,541点

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度(計画)
コスト	170,394,168	161,166,808	163,355,677	160,598,426
事業費	69,635,606	60,095,633	59,681,563	51,052,000
財源内訳	補助金・負担金	0	0	0
	うち県分	0	0	0
	受託料等	8,515,100	13,539,641	16,602,801
	うち県分	8,383,262	13,428,144	16,475,562
	(上記のうち指定管理料)	8,383,262	13,032,000	13,032,000
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0
	使用料・入場料等	61,120,506	46,555,992	43,078,762
借入金	0	0	0	
その他(上記以外)	0	0	0	
人件費	100,758,562	101,071,175	103,674,114	109,546,426
職員別内訳	役員、評議員	719,217	691,192	694,961
	正規職員、その他職員	100,039,346	100,379,983	102,979,153

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	a	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<p>【飼育・展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニアクアリウムで季節水槽展示(各月)</li> <li>・飼育の日イベント実施(4/16.17)</li> <li>・石見万葉の磯で「カラスエイ」展示開始(11/11～)</li> <li>・「アカムツ(のどぐろ)」展示開始(12/28～)</li> <li>・新設「なかよし広場」にてアザラシ給餌解説(12/1～ など</li> </ul> <p>【収集・繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンツーペンギン孵化(6/24.25)</li> <li>・カリフォルニアアシカ搬入(大阪海遊館より 3/29) など</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シロイルカ/アシカアザラシパフォーマンスの実施</li> <li>・お食事タイム、ペンギンパレードの実施</li> </ul>	

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-5

1. 事業概要

事業名	学習交流事業				
目的及び内容	①ボランティアの育成・支援事業 ②調査研究事業(海洋生物の漂着調査等) ③主催スクール事業 ④各種教育活動(学校団体等受け入れ等) ⑤教育プログラム作成及び情報発信活動 ⑥特別企画展事業 ⑦地域交流事業(地域交流イベント実施・地元振興イベント支援)				
目標(値)	主催スクール事業の開催回数				
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
	目標値	35	35	35	35
	実績値	38	36	36	

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度(計画)	
コスト	33,915,045	38,324,207	45,472,774	34,981,133	
事業費	9,675,441	7,346,137	13,250,113	10,188,000	
財源内訳	補助金・負担金	0	0	9,280,000	
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	2,083,736	1,907,122	1,907,122	1,907,122
	うち県分	2,083,736	1,907,122	1,907,122	1,907,122
	(上記のうち指定管理料)	2,083,736	1,907,122	1,907,122	1,907,122
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0	0
	使用料・入場料等	7,591,705	5,439,015	2,062,991	8,280,878
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
人件費	24,239,604	30,978,070	32,222,661	24,793,133	
職員別内訳	役員、評議員	719,217	691,192	694,961	691,600
	正規職員、その他職員	23,520,388	30,286,878	31,527,700	24,101,533

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	a	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催スクール事業として「サマースクール」「日曜講座」「海の生き物教室」等を合計10種、計36回開催した。</li> <li>・環境教育における「ESD推進」のための実践拠点施設支援事業として、研修会等を企画・実践した。</li> <li>・特別企画展を2回実施した。①「深海の世界」(春～秋)②「実験くん」(秋～冬) 「深海の世界」展開催にあたり、日本財団からの補助金を活用し、事業の充実を図った。</li> <li>・夏季には小中学生を対象とした「わんぱく探検隊」を冬場には一般の方も対象とした「みんなの知らないアクアスツアー」というバックヤードツアーを開催した。</li> <li>・地域交流イベント「アクアス春祭り」を開催した。(約1万人の来園者)</li> <li>・福祉週間(児童・敬老・障がい者)の無料開放を実施(減免人数:5,451人、減免額6,288千円)</li> </ul>	

経営評価報告書[事業実績総コストシート(各法人共通)]

(C)

コスト等の推移

(単位:円)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度(計画)	
総コスト	625,425,121	597,186,686	611,671,631	594,166,000	
事業費	401,798,158	366,182,883	369,728,995	351,051,000	
財源内訳	補助金・負担金	0	527,500	9,280,000	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	86,510,880	114,025,482	122,513,277	118,855,916
	うち県分	86,379,042	113,913,985	122,386,038	118,745,916
	(上記のうち指定管理料)	86,379,042	113,517,841	118,942,476	118,745,916
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	268,000	268,000	268,000	163,000
	使用料・入場料等	315,019,278	251,361,901	237,667,718	232,032,084
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
人件費	223,626,963	231,003,803	241,942,636	243,115,000	
職員別内訳	役員、評議員	7,480,915	7,247,924	7,240,114	7,252,000
	正規職員、その他職員	216,146,048	223,755,879	234,702,522	235,863,000
財源内訳	補助金・負担金	0	0	0	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	48,407,840	72,428,084	72,428,084	72,428,084
	うち県分	48,407,840	72,428,084	72,428,084	72,428,084
	(上記のうち指定管理料)	48,407,840	72,428,084	72,428,084	72,428,084
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0	0
	使用料・入場料等	175,219,123	158,575,719	169,514,552	170,686,916
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
総コストの財源内訳	補助金・負担金	0	527,500	9,280,000	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	134,918,720	186,453,566	194,941,361	191,284,000
	うち県分	134,786,882	186,342,069	194,814,122	191,174,000
	(上記のうち指定管理料)	134,786,882	185,945,925	191,370,560	191,174,000
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	268,000	268,000	268,000	163,000
	使用料・入場料等	490,238,401	409,937,620	407,182,270	402,719,000
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
総コスト(財源内訳の計)	625,425,121	597,186,686	611,671,631	594,166,000	



経営評価報告書[財務状況シート(各法人共通)]

(D)

1. 貸借対照表に関する項目

科目	コード	H26年度	H27年度	H28年度
<b>I 資産</b>				
流動資産	a	134,688,142	131,547,147	120,264,257
現金・預金	b	107,801,444	108,091,969	83,731,511
その他の流動資産	c	26,886,698	23,455,178	36,532,746
固定資産	d	652,729,079	648,021,852	640,720,180
基本財産	e	100,000,000	100,000,000	100,000,000
基本財産以外の固定資産	f	552,729,079	548,021,852	540,720,180
うち特定資産	g	153,830,630	163,937,688	168,413,070
(固定資産の性質別内訳)				
有形固定資産		69,189,319	54,330,034	42,515,980
無形固定資産		0	0	0
投資等		329,709,130	329,754,130	329,791,130
資産計	h	787,417,221	779,568,999	760,984,437
<b>II 負債</b>				
流動負債	i	42,067,570	41,495,498	48,921,523
短期借入金	j	0	0	0
うち県からの短期借入金	k	0	0	0
その他の流動負債	l	42,067,570	41,495,498	48,921,523
固定負債	m	102,655,630	112,087,688	116,563,070
長期借入金	n	0	0	0
うち県からの長期借入金	o	0	0	0
その他の固定負債	p	102,655,630	112,087,688	116,563,070
負債計	q	144,723,200	153,583,186	165,484,593
<b>III 正味財産・資本</b>				
基本金	r	100,000,000	100,000,000	100,000,000
うち県の出資・出えん分	s	100,000,000	100,000,000	100,000,000
基本金以外の正味財産・資本	t	542,694,021	525,985,813	495,499,844
当期正味財産・資本増減	u	▲ 96,466,125	▲ 16,708,208	▲ 30,485,969
準備金・前期繰越等	v	639,160,146	542,694,021	525,985,813
(うち県が造成補助した取崩し型運用財産)	w	0	0	0
正味財産・資本計	x	642,694,021	625,985,813	595,499,844
負債と正味財産・資本の合計	y	787,417,221	779,568,999	760,984,437

【貸借対照表に関する項目の記載内容の注意事項】

※  
※

参考: 正味財産の内訳(新公益法人会計適用団体のみ)

科目	コード	H26年度	H27年度	H28年度
<b>正味財産</b>				
指定正味財産	①	100,000,000	100,000,000	100,000,000
うち基本財産への充当額	②	100,000,000	100,000,000	100,000,000
うち特定資産への充当額	③	0	0	0
一般正味財産	④	542,694,021	525,985,813	495,499,844
うち基本財産への充当額	⑤	0	0	0
うち特定資産への充当額	⑥	51,175,000	51,850,000	51,850,000
正味財産計	⑦	642,694,021	625,985,813	595,499,844

経営評価報告書[財務状況シート]

(D)-2

1-2. 資産に関する項目

(単位:千円)

固定資産	a	640,720
基本財産	b	100,000
有形固定資産	c	0
無形固定資産	d	0
投資等	e	100,000
基本財産以外の固定資産	f	540,720
有形固定資産	g	42,516
無形固定資産	h	0
投資等	i	498,204

有形固定資産(g)の内容

主な資産	価額(千円)	資産の保有目的
建物	1,537	財産を利用して水族館運営事業を実施する
構築物	1,597	財産を利用して水族館運営事業を実施する
建物付属設備	241	財産を利用して水族館運営事業を実施する
什器備品	36,258	財産を利用して水族館運営事業を実施する
少額備品	2,883	財産を利用して水族館運営事業を実施する

無形固定資産(h)の内容

主な資産	価額(千円)	資産の保有目的

投資等(i)の内容

区分	価額(千円)	資産の保有目的
特定資産 退職給付引当資産	116,563	職員の退職給付引当資産として
特定資産 減価償却引当資産	51,850	財団所有備品類の更新費として
リサイクル預託金	11	公用車のリサイクル料金として
運用財産 投資有価証券	129,780	財産の運用益及び財産の一部を利用して水族館運営事業を実施する
運用財産 長期定期預金	200,000	財産の運用益及び財産の一部を利用して水族館運営事業を実施する

経営評価報告書[財務状況シート(公益法人等)]

(E)

2. 正味財産増減計算書に関する項目

科目	コード	H26年度	H27年度	H28年度
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
経常増減の部				
経常収益	①	529,640,230	580,676,785	581,279,274
基本財産運用益	ア	268,000	268,000	268,000
特定資産運用益	イ	0	0	0
入会金・会費	ウ	0	0	0
事業収益	エ	392,814,047	391,488,194	374,674,565
補助金収益	オ	0	527,500	9,310,000
うち県からの補助金	カ	0	0	0
受託等収益	キ	134,918,720	186,453,566	194,911,361
うち県からの受託等収益	ク	134,786,882	186,342,069	194,814,122
うち指定管理料	ケ	134,786,882	185,945,925	191,370,560
負担金収益	コ	0	0	0
うち県からの負担金収益	サ	0	0	0
寄付金収益	シ	0	0	0
雑収益	ス	1,639,463	1,939,525	2,115,348
うちその他の財産の運用による利息等収益	セ	1,173,999	1,161,198	1,132,981
経常費用	②	625,425,121	597,186,686	611,590,631
事業費	ソ	619,765,785	591,474,045	605,307,669
うち自主事業に係る事業費	タ	619,765,785	591,474,045	605,307,669
管理費	チ	5,659,336	5,712,641	6,282,962
(うち人件費)	ツ	223,626,963	231,003,803	241,942,636
評価損益等調整前当期経常増減額(①-②)	③	▲ 95,784,891	▲ 16,509,901	▲ 30,311,357
評価損益等調整額	テ	0	0	0
当期経常増減額(③+テ)	④	▲ 95,784,891	▲ 16,509,901	▲ 30,311,357
経常外増減の部				
当期経常外増減額	⑤	▲ 600,234	▲ 117,307	▲ 93,612
経常外収益	ト	0	0	0
経常外費用	ナ	600,234	117,307	93,612
税引前当期一般正味財産増減額(④+⑤)	⑥	▲ 96,385,125	▲ 16,627,208	▲ 30,404,969
法人税、住民税及び事業税	ニ	81,000	81,000	81,000
税引後当期一般正味財産増減額(⑥-ニ)	⑦	▲ 96,466,125	▲ 16,708,208	▲ 30,485,969
一般正味財産期首残高	又	639,160,146	542,694,021	525,985,813
一般正味財産期末残高(⑦+又)	⑧	542,694,021	525,985,813	495,499,844
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
当期指定正味財産増減額	ネ	0	0	0
指定正味財産期首残高	ノ	100,000,000	100,000,000	100,000,000
指定正味財産期末残高(ネ+ノ)	⑨	100,000,000	100,000,000	100,000,000
<b>III 正味財産期末残高(⑧+⑨)</b>				
	⑩	642,694,021	625,985,813	595,499,844

【備考】

基本財産からの取崩収入	ハ	0	0	0
うち県分	ヒ	0	0	0
特定資産からの取崩収入	フ	0	0	0
うち県分	ヘ	0	0	0
借入金収入	ホ	0	0	0
うち県分	マ	0	0	0
その他	ミ	0	0	0
うち県分	ム	0	0	0
計(ハ+フ+ホ+ミ)	⑪	0	0	0
収入計(①+ト+⑪)	⑫	529,640,230	580,676,785	581,279,274
職員数[人]	メ	44	45	43

経営評価報告書[財務状況シート(公益法人等)]

(G-1)

4. 評価指標に関する項目(公益法人等)

No.	指標名	計算式	内容	H26年度	H27年度	H28年度	
安全性・健全性	1 自己資本比率	正味財産・資本計÷資産計×100%	x/h	総資本にしろる返済義務の無い自己資本の割合から、外郭団体の財務基盤の安定性・健全性をみる。	81.6%	80.3%	78.3%
	2 流動比率	流動資産÷流動負債×100%	a/i	1年以内に返済しなければならない流動負債に対する1年以内に資金化できる流動資産の比率から、外郭団体の支払能力をみる。	320.2%	317.0%	245.8%
	3 固定長期適合率	固定資産÷(固定負債+正味財産・資本計)×100%	d/(m+x)	固定的な資金調達(自己資本+長期負債)に対する固定資産の比率から、外郭団体の固定資産投資の安全性をみる。	87.6%	87.8%	90.0%
	4 借入金依存率	借入金収入÷当期収入合計×100%	ホ/⑩	当期収入額に占める借入金収入の割合から、外郭団体の借入金への依存度をみることに、財務基盤の健全性をみる。	0.0%	0.0%	0.0%
貸借対照表における借入金計÷資産計×100%		(j+n)/h	金利負担のある負債と外郭団体等が調達した全ての資産との比率から、外郭団体等の調達資金の安定性と金利変動に対する経営リスクを見る。	0.0%	0.0%	0.0%	
効率性	5 人件費比率	人件費÷経常費用×100%	ツ/②	当期費用に占める人件費の割合から、外郭団体等の経営の効率性をみる。	35.8%	38.7%	39.6%
	6 管理費比率	管理費÷経常費用×100%	チ/②	当期費用に占める管理費の割合から、外郭団体の経営の効率性をみる。	0.9%	1.0%	1.0%
	7 職員一人あたり事業収益額	事業収益÷職員数	エ/メ	職員一人あたりの事業収益の推移をみることに、外郭団体の効率性をみる。	8,927,592.0	8,699,737.6	8,713,362.0
	8 基本財産運用効率	基本財産運用益÷基本財産×100%	ア/e	資金運用益の状況から基本財産の運用効率を判断する。	0.3%	0.3%	0.3%
自主性	9 県への財政的依存度	県からの収益(補助金+受託等+負担金)÷経常収益×100%…(1)	(カ+ク+サ)/①	経常収益に占める県からの補助金等の割合から、財政上の県との関わり合いを判断する。	25.4%	32.1%	33.5%
		(1)の収益から県の指定管理料を控除した場合	(カ+ク+サ-ケ)/①	(1)より、県の指定管理料を控除して算定した依存度により、財政上の県との関わり合いを判断する。	0.0%	0.1%	0.6%
		※参考 (1)の収益+特定資産からの取崩収入のうち県分)÷経常収益×100%…(2)	(カ+ク+サ+ヘ)/①	(1)に加え、特定資産からの取崩収入のうち県分を加味し、財政上の県との関わり合いを判断する。	25.4%	32.1%	33.5%
		(2)の収益から県の指定管理料を控除した場合	(カ+ク+サ+ヘ-ケ)/①	(2)より、県の指定管理料を控除して算定した依存度により、財政上の県との関わり合いを判断する。	0.0%	0.1%	0.6%
	10 受託等収益率	受託等収益÷経常収益×100%	キ/①	経常収益の中に占める受託等の割合から、受託事業への依存度を判断する。	25.5%	32.1%	33.5%
	11 補助金収益率	補助金収益÷経常収益×100%	オ/①	経常収益の中に占める補助金の割合から、補助金収益への依存度を判断する。	0.0%	0.1%	1.6%
12 自主事業比率	自主事業費に係る事業費÷事業費×100%	タ/ソ	事業費に占める自主事業の割合から、自主事業への取り組み状況を判断する。	100.0%	100.0%	100.0%	

指標にかかるコメント等

- No.1自己資本比率、No.2流動比率：H28年度入館者動向の低減により収支マイナスにより、流動資産(預金)の減少が続いている。
- No.5人件費比率：オープンから18年目を迎え、年齢構成も上がり傾向で退職給付費用(積立金)を含めて人件費比率が上昇している。
- No.9県への財政的依存度、No.10受託等収益率：昨年度に比較して修繕費に対する指定管理料が増加し、比率が上昇している。
- No.11補助金収益率：H28年度は、特別展開催にかかる事業費について、外部助成金を活用して実施したため、比率が上昇している。

経営評価報告書[項目別チェックシート(各法人共通)]

(I)

1. 団体の存在意義および存続性にかかる項目

チェック項目	評価	説明
事業内容が設立目的に合致しているか ----- A: 全ての事業が目的に合致 B: かなりの事業が目的に合致 C: 目的に合致するものが少ない	A	
設立目的に合致した社会的要請があり、公益団体として存在意義が認められるか ----- A: 認められる B: 社会的要請は減少してきているが認められる C: 存在意義が薄れつつあるまたはほとんど無い	A	
設立目的及び事業内容が類似する非営利団体があるか ----- A: 全くないまたは存在するが、合理的理由により差別化ができる B: 差別化の理由が希薄であるが、代替は困難 C: 代替することが比較的容易	A	
類似する事業内容を行う営利企業があるか ----- A: 全くないまたは存在するが、合理的理由により差別化ができる B: 差別化の理由が希薄であるが、代替は困難 C: 代替することが比較的容易	A	設置目的、立地条件、運営方式などを鑑みると、営利企業では果たせない役割がある。
団体として人的体制が整っているか ----- A: 事業規模に応じたプロパー職員がいる B: 県派遣等を含め事業に対応した体制になっている C: プロパー職員が極端に少ないまたはいない	A	現状は問題ないが、プロパー職員の年齢構成が偏っている。将来的な運営を考えた採用計画を検討する必要がある。
財政基盤の面で安定しているか ----- A: 取り崩し型運用財産以外の自主的財源があり安定している B: 安定した補助金や受託事業収入があり当面安定している C: 不安定な補助金、受託事業や取り崩し型運用財産に頼っており不安定	A	

自己評価の点数化集計

Aと回答した数  × 2点 =  点

Bと回答した数  × 1点 =  点

Cと回答した数  × 0点 =  点

計  点 …①

総回答数  × 2点 =  点 …②

比率  $\frac{①}{②} \times 100 =$

%

2. 組織体制および運営状況にかかる項目

チェック項目	評価	説明
理事会等は適正に開催され、かつその機能は十分に発揮されているか ----- A: 定期に加え、必要の都度機動的に開催し、重要事項を決定している B: 定期開催時に事業内容等についても合わせて審議している C: 定例的なもののみで議事内容も定例的なものにとどまっている	A	定期開催時に予算決算の他、事業内容についても詳しく審議している。また、重要事項の決議の際は、臨時理事会を開催できるよう体制を整えている。
評議員会等は適正に開催され、かつその機能を十分発揮されているか ----- A: 定期に加え、必要の都度機動的に開催し、重要事項を審議している B: 定期開催時に事業内容等についても合わせて審議している C: 定例的なもののみで議事内容も定例的なものにとどまっている	A	定期開催時に予算決算の他、事業内容についても詳しく審議している。また、重要事項の決議の際は、臨時評議員会を開催できるよう体制を整えている。
組織人員のスリム化に向けた見直しを行っているか ----- A: 見直しを行い、実施している又は見直しを行う必要がない B: 見直しの作業を行っている C: 見直しの必要があるが行っていない	A	
役員報酬規程、職員給与規程、就業規則、決裁規則、会計・経理規程等が整備され、適切に運用されているか ----- A: 必要な規程は全て整備され適切に運用されている B: 職員の周知徹底を含め運用に不十分な点がある C: 必要な規程が整備されていない	A	
情報公開・個人情報保護に関する規程を定めているか ----- A: 2つとも定めている B: 一方を定めていない C: 2つとも定めていない	A	両規程とも定めている。  情報公開要綱 : H14. 4. 1 個人情報保護要綱: H15. 4. 1
事業活動内容・財務状況等について広報誌やホームページ等で積極的に情報公開しているか ----- A: 全て公開している B: 一部公開している C: 公開していない	A	
人材育成・能力開発を行っているか ----- A: 研修会を開催したり、外部研修会に参加させるなどを十分に行っている B: 十分ではないが行っている C: 行っていない	A	

自己評価の点数化集計

Aと回答した数  × 2点 =  点

Bと回答した数  × 1点 =  点

Cと回答した数  × 0点 =  点

計  点 …①

総回答数  × 2点 =  点 …②

比率  $\frac{①}{②} \times 100 =$

%

### 3. 事業の実施状況にかかる項目

チェック項目	評価	説明
提供するサービスに対する顧客満足度及び顧客のニーズの把握に努めているか A:あらゆる機会を捉え、積極的に調査を行い把握に努めている B:十分ではないが必要に応じ把握に努めている C:あまり努めていない	A	アンケートや接客業務スタッフの連絡及び業務日報、お問い合わせメールなどから情報収集を行い、定例会議などで情報共有している。
団体として将来見通しを立て、計画的に事業実施を図っているか A:数値目標、収支計画、年次計画を盛り込んだ計画を策定し事業を行っている B:一部の事業、一部の内容についての計画または短期的な計画を策定し事業実施している C:計画的な実施ができていない	A	
事業実施にあたって目標数値等を設定し、達成状況を評価・活用しているか A:目標を設定し、評価・活用している B:目標を設定しているが達成状況の評価にとどまっている C:できていない	A	
事業毎に費用対効果を分析し、事業見直しに活用しているか A:十分に分析し、活用している B:かなり分析し、活用している C:あまり分析せず・活用もしていない	A	
コストを抑制して、事業活動を効率的に行っているか A:少ないコストにより、多くの事業活動を効率的に行っている B:コストの抑制に心がけているが、事業活動が効率的とはいえない C:行っていない	A	
受託事業の再委託率が高くなっていないか A:低いまたは低下傾向にある B:高いが合理的理由がある C:高く、再委託先に任せきりにしている事業が多数ある	A	特殊な機器があり、専門性の高い機器は再委託によりメンテナンスを行っているが、その割合は事業費に対して1割程度であり、低いと考える。
保有資産の有効活用が図られているか A:資産の有効活用により、十分な事業活動が可能である。 B:資産を活用しているものの、事業活動の成果が十分とは言えない C:資産が活用されていない又は保有目的が不明確な資産がある	A	

#### 自己評価の点数化集計

Aと回答した数	<input type="text" value="7"/>	× 2点	=	<input type="text" value="14"/>	点
Bと回答した数	<input type="text" value="0"/>	× 1点	=	<input type="text" value="0"/>	点
Cと回答した数	<input type="text" value="0"/>	× 0点	=	<input type="text" value="0"/>	点
				<input type="text" value="14"/>	点 …①
総回答数	<input type="text" value="7"/>	× 2点	=	<input type="text" value="14"/>	点 …②
			比率	$\frac{①}{②} \times 100 =$	<input type="text" value="100"/> %

4. 財務状況および財務指標にかかる項目

チェック項目		評価	説明
安定性	1 自己資本比率が低下傾向にないか A: 低下傾向にない B: 低下傾向にあるが、緩やかである C: 近年大幅に低下する傾向にある	B	
	2 流動比率が100%以上あるか A: 100%以上ある B: - C: 100%未満である	A	
	3 前年度末現在の借入金の返済が可能か A: 借入当初の返済計画通り返済が可能 B: 当初の返済計画通りいかないが返済計画の見直しを行った C: 返済計画の見直しの必要がある	-	
	4 借入金依存度(借入金÷総資産)が適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	-	
	5 資産の管理は適切か A: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われており、価値が確保されている B: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われているが、価値が低下している C: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われていない	A	
効率性	6 人件費比率は適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	B	人件費が増加し、全体の経常費用が減少傾向にあるため、人件費比率が上昇している。
	7 管理費比率は適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	A	
	8 職員一人当たりの事業収益額の推移は適正か A: 増加傾向または横ばいである B: 減少傾向だが、合理的な理由がある C: 減少傾向にある	A	
	9 基本財産や運用財産を適正・効率的に運用しているか A: 規程を整備し適正・効率的に運用している B: 規程はないが効率的な運用を行っている C: 不十分であり改善の余地がある	A	
自立性	10 県への財政依存度は適正か A: 低下、横ばい傾向または県の事業拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	
	11 受託等収益率は適正か A: 低下、横ばい傾向または目的事業の拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	
	12 補助金収益率は適正か A: 低下、横ばい傾向または目的事業の拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	特別展開催にかかる事業費について、外部助成金を活用して実施したため、比率が上昇した。
	13 自主事業比率は適正か A: 上昇、横ばい傾向または目的事業の拡充等により低下している B: 低下傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 低下しており、自立性が低下している	A	

自己評価の点数化集計

Aと回答した数	<input type="text" value="9"/>	× 2点	=	<input type="text" value="18"/>	点
Bと回答した数	<input type="text" value="2"/>	× 1点	=	<input type="text" value="2"/>	点
Cと回答した数	<input type="text" value="0"/>	× 0点	=	<input type="text" value="0"/>	点
			計	<input type="text" value="20"/>	点 …①
総回答数	<input type="text" value="11"/>	× 2点	=	<input type="text" value="22"/>	点 …②
			比率	$\frac{①}{②} \times 100 =$	<input type="text" value="91"/> %



経営評価報告書[総合評価シート(各法人共通)]

(J)

1. 評価結果(個別観点)

観 点	評価内容	評 価
団体のあり方	しまね海洋館の管理運営にあたり、設立目的に沿った運営を行っている。 また、開館当初から水族館の管理運営に携わり、運営のノウハウと関係地域及び各関係機関との連携体制も兼ね備え、これらを活かした事業展開を行っている。	A
組織運営	効率的な人員配置・組織運営を行っている。組織機構の改正及び職員採用を行い、施設整備による管理施設の増加及び繁殖等による飼育生物の増加などに対応している。 また、日本動物園水族館協会主催の研修会をはじめ、各種研修会に積極的に参加し、職員のスキルアップを目指している。	A
事業実績	平成28年度の入館者は357,772人(前年度比95.7%)となり、開館以来最低の入館者となった。 しかしながら、シロイルカやペンギンをはじめ生物の飼育・繁殖において確かな実績を残している。また、教育普及活動においても各種事業を通して継続的な活動実績を残しているとともに、環境教育における拠点施設となる事業も開始し、さらなる充実を図っている。	B
財務内容	入館者の低減とともに収支の赤字が続いており、単年度収支の改善が当面の課題となっている。 しかしながら、当面の安定運営に必要な資産を保有し、財務の健全性は確保しており、財産状況に関する公益法人の適用要件(遊休財産保有規制)についても良好な条件で満たしている。	B

評価の目安

A: 良好である B: ほぼ良好である  
C: やや課題がある D: 課題が多い

2. 総合評価(今後改善すべき内容、方向性等)

課題の内容等	今後の方向性等
消費税率増加に伴い入館料を改正したが、10円単位の料金となったため、多客日の待ち列増加など利便性が低下している。	次期税率改正時などのタイミングに合わせ、10円単位の設定を無くすなどの調整を行いたい。
現在の指定管理料の算定式が”収入見込み”から”支出見込み”を差し引いた金額となっており、次の問題点をはらんでいる。①経営努力での収入増が吸収されてしまう。②入館料収入の算定が難しく、その割合が約6割を占める当法人にとって単年度に大きな赤字を追ってしまうリスクがあり、事業縮小など負のスパイラルに陥る可能性がある。	指定管理のあり方について、これまでも指定期間などの問題点について改善を行っていただいたが、それらの問題点に合わせて算定のあり方についても引き続き検討を行っていただけるよう、問題提起を行って行きたい。
石見海浜公園区域(Dゾーン)で営業活動する団体間での調整が必要。多客日対応に対する団体間の意識統一が難しい。(お客様が増えればコストだけが増えるという仕組みの団体では管理が難しい)	石見海浜公園及び石見地域の活性化のため、団体それぞれのあり方や管理区域の再検討が必要と感じている。